

(厚労省のマスコミ対応:「ベトナムで何がおきているのか」)

7月1日午後5時、ベトナムのホーチミン市における H5 インフルエンザのヒト-ヒト感染発生の疑い情報(「ホーチミン市内の病院で H5 に感染したと思われる患者が 20 名程度発生。病院医師によればいずれも極めて重症な呼吸器症状を呈し、うち3名が死亡。H5N1 のヒト-ヒト感染の発生が濃厚」)が、現地日本メディアから東京本部に配信。

厚労省記者クラブの各紙記者が結核感染症課に詰めかけ取材を開始。また各インターネット(別紙1)及び、午後6時のテレビニュース速報で、ベトナムにおける情報が続々と報道され始めた。

なおマスコミからの厚労省への取材内容は以下のもの

- * ベトナムでの情報の事実確認
- * 新型インフルエンザの発生と考えるか
- * ベトナム政府の対応
- * 日本政府の対応
- * WHO の対応
- * 各国政府の対応
- * ベトナムからの帰国者への対応」等

しかしながら、結核感染症課にはマスコミより先にベトナム情報が届いておらず、課の担当者はマスコミ取材で始めて事態を知り、インターネット報道で情報を得ている状況。

結核感染症課は取材等を受けて、急遽、WHO に連絡したが繋がらず、30 分後、WHO 新型インフルエンザ対策部門の進藤専門官からメール(別紙2)にて、ベトナムよりの情報が伝えられる。また外務省、現地大使館等から情報収集を試みるが、いずれも WHO 進藤情報を越える情報は無し。

総理官邸からも厚労省、外務省に問い合わせがあり、緊急対策本部の招集が命じられ、結核感染症課長は幹部対応に追われる。

外務省には現地大使館より現地新聞記事の翻訳情報が総理官邸と厚労省結核感染症課に伝えられる。

同日午後8時、結核感染症課長通知により「ベトナムより帰国した者の検疫強化」が全国検疫所に指示。(別紙3)

同時に、ベトナム便が就航している成田空港及び関西空港の検疫所に対し、7月1日から3日以内に、ベトナムより到着した航空機のパッセンジャーリストを全て取得し、日本人旅行者のリストを作成するように指示。

この間に、日本時間午後6時半(現地時間:午後4時半)にベトナム政府が行った記者発表の概要(プロローグ)が外務省より伝えられ、ようやくベトナムの状況についての情報が得られた。

(国内発生事例?:第1幕)

7月1日、都立立川病院の救急外来に、田中〇〇氏(52歳)来院。肺炎と呼吸困難があったため、「肺炎」との診断で入院し4人部屋にて加療開始。検体を採取し一般血液検査等を開始したが、細菌検査(-)。

同日午後6時、都立立川病院の救急外来の看護師がベトナムにおけるH5のヒト感染拡大のニュースを見て、田中氏がベトナムから帰ってきたことを同室の患者に話していたことを思い出し、慌てて呼吸器科入院病棟の担当看護師に相談。主治医と呼吸器科長が相談し、感染症部長に報告の上、田中氏にインフルエンザ簡易診断キットで患者喀痰を検査したところA型陽性。

同病院では、午後7時に東京都疾病対策課に連絡。午後7時30分に都庁より厚労省結核感染症課に一報(別紙4「背景」が、東京都からの報告内容)。それと平行して、東京都は、田中氏の検体を都立健康安全センターに検体を送付するとともに、田中氏を念のため国立国際医療センターに搬送することを決定。8時に、保健所の車が同病院に到着、検体を受け取り搬送。同時に、田中氏を都のアイソレータ装備の搬送車で国立国際医療センターに搬送。

このとき、アイソレータでの搬送をA新聞社の記者が目撃し、上司に報告するとともに、病院、東京都、厚生労働省へ問い合わせを行う。A新聞社の記者は、病院、東京都、厚生労働省へ検査結果の確認を執拗に迫り、とうとう、病院関係者からH5疑いであることを確認。

7月2日深夜(0:00頃)、都立健康安全センターで、H5陽性であることが判明。A新聞社の記者は、東京都からH5陽性であることを聞き出し、WEB上で速報(別紙5)を流す。

他のマスコミ関係者が東京都、厚生労働省へ殺到し、厚労省記者クラブにおいても7月2日午前2時から記者レクが設定される。

【模擬記者会見】

(厚労省のマスコミ対応:第2幕)

都立立川病院での採取検体が、都立健康安全センターへの送付と同時に、国立感染症研究所に送付されており、7月2日深夜のH5陽性の確認を経て、国立感染症研究所において、確定検査を開始。

H5N1が確定される予定の午前4時頃に再度、記者レクが設定される。

午前4時前、H5N1陽性が確認される。

その後、結核感染症課では立川病院の情報を得て、田中さんが搭乗したベトナム航空412便の乗客名簿の取得を進めるためベトナム航空に連絡すると共に、田中さんの同行者の洗い出しを行うため三菱商事に連絡。

※ここでは、まだ、疫学調査実施中ですので、記者会見シミュレーションは省略。

(厚労省のマスコミ対応:第3幕)

2回目の記者レクにおいて、次回の記者レクを午前10時とし、周囲の感染者の状況を報告することとした。

検疫所に指示したパッセンジャーリストは、午後9時に報告があり、日本人旅行者は約800名に及びことが判明。(ベトナム航空の同乗者リストはまだ連絡なし。)

(追加情報1:三菱商事本社から都が聞いた情報)

田中氏は、2006年6月23日から、ベトナムに出張(ハノイ→ホーチミン、8泊9日。)

ベトナムでは、地ベトナム人社員等と共にホーチミンで工場視察(繊維工場)する。ベトナム滞在時に同行した現地社員(ベトナム人)の中に、発熱・咳等で体調不良であったものがいたとのこと。

また、体調を崩していた現地ベトナム人社員は、その後、39度を超える発熱と呼吸困難など重度のインフルエンザ様の症状を呈し、7月1日昼に、ホーチミン市内のインフルエンザ拠点病院となっている熱帯病病院を受診。同病院には数日前より同様の症状を呈した成人患者計11名が来院していたため、呼吸器担当医師らは万が一の新型インフルエンザを疑って、併設のウェルカムトラスト熱帯病研究所及びホーチミン市パスツール研究所に検体を送付し、緊急検査依頼を実施しているが結果は現時点で不明。

なお、以上の情報は、ベトナム人随行者の家族より、三菱商事現地事務所へ報告されたもので、三菱商事現地事務所では、同日午後5時、ベトナム人従業員より熱帯病病院におけるH5疑い患者の隔離情報を得て、再度、東京事務所に田中さんらの健康状態について確認する必要があることを上申されていた。

(追加情報2:三菱商事から都が聞いた情報)

田中氏の出張には、鈴木△△氏(36歳)と、中村××氏(42歳)が同行。

現在、鈴木氏は、症状がないことを確認しているが、中村氏については、昨夜から発熱が続いているとのことで、朝一番で、都内の病院(病院名不明)へ行ったとのこと。詳細は確認中。

(追加情報3:都からの情報)

田中氏は、現在、国立国際医療センターの第一種感染症指定病床に入院し、経過観察中。抗インフルエンザ薬(タミフル)投与、輸液・人工呼吸器等による治療を開始しているが、様態は昨晚より悪化しているとのこと。

なお、家族、病院同室者、病院関係者にはインフルエンザ様症状があるものはなく、迅速キットでも(-)とのこと。調査は継続中。

WHOはまだフェーズ4宣言はしないとの情報あり。

【模擬記者会見】

模擬資料

「Yahoo! ニュース」より

ヘッドライン

ベトナムで新型インフルエンザ発生

【ベトナム・ハノイ1日〇〇】ベトナム保健省は、7月1日、ハノイ市の中心部でH5インフルエンザ患者が発生しているとの発表を行った。同省によれば、約40名程度の患者が発生しているとのことで、そのなかで多数の死亡者の出ているという。なお、新型インフルエンザ発生との関係は、まだ不明で、現在、調査が行われているが可能性は高いとのこと。患者が入院している病院の医師の話では、「患者の中には、トリとの接触がない患者が多数おり、ヒトからの感染の可能性が高い」とコメントしている。ベトナム政府は同時にWHOにも報告しており、近々、WHO職員が現地入りする模様。【〇〇新聞 1日午後5:59 更新】

- ・ 新型インフルエンザ- Yahoo!カテゴリ

別紙2)

From: 進藤@〇〇.com
To: 金成@〇〇.mhlw.go.jp
Cc: 国立感染症研究所@nih.go.jp
Sent: Wednesday, Jly 1, 2006 20:30
Subject: RE: ベトナムの H5 インフルエンザ発生について

金成先生

CC: 国立感染症研究所

先ほど、メールをいただきましたベトナムでのH5インフルエンザ発生ですが、WPROの方にも断片的な情報しか入っておらず、詳細を調査中です。

現在、分かっている情報は以下のとおりです。

ハノイ市

6月下旬から、インフルエンザ様症状患者の来院が増加。

現在、H5陽性患者 4名(うち1名死亡) 疑い患者22名が、バクマイ病院に入院中。

(現在、国立衛生微生物研究所で、再検査中。)

ホーチミン市

6月下旬から、インフルエンザ様症状患者の来院があり、7月1日に急増。

現在、H5陽性患者5名(うち3名死亡)

そのほかに患者、疑い患者がいるのかどうかは不明。

なお、ベトナム政府では、患者・接触者の調査を実施するとともに、他の地域に対して、呼吸器感染症患者の急増がないかを調査中。

ヒト-ヒト感染かどうかは、その情報を入手しないと不明。

WHO・WPRO 進藤

別紙3)

ベトナムにおけるインフルエンザH5患者の発生を受けた検疫所の対応の強化
について

平成18年7月2日

結核感染症課

現在、ベトナム政府の発表等においては、ハノイ市・ホーチミン市においてインフルエンザH5患者が発生し、同地域においてインフルエンザH5が疑われる患者も発生しているとの情報があり、これが、ヒト-ヒト感染を起こす新型インフルエンザの可能性が示唆されている。

このため、7月2日から、新型インフルエンザ対策の一環として、以下の対応をとることとする。

- ベトナムへの出国者に対して、患者発生に関する情報提供、渡航中の感染防止等の注意喚起の徹底
- ベトナムからの入国者に対して、
 - 発熱、呼吸器症状を呈した者の申告を積極的に求める
 - 当該入国者を特定の検疫ブースに誘導するなどしてサーモグラフィー又は体温計を使用した体温測定を実施

別紙4

(背景1)

※本人からの聴取が無理なため、家族及び病院関係者から聴取。

田中〇〇氏(52歳)三菱商事社員

2006年6月23日から、ベトナムに出張(ハノイ→ホーチミン、8泊9日。日本からの同行者はあり(氏名は不明))。

7月1日午前8時に成田に到着。田中氏は搭乗時より悪寒を感じ、成田到着時には発熱を呈する。東京都立川市の自宅に帰るためリムジンバスに乗る。バス乗車中に発咳が出始め、帰宅時には発熱で歩行困難となった。

自宅で市販薬を飲むが悪化していったため、タクシーにて都立立川病院へ行き、正午に救急外来を妻に付き添われて受診。

受診時、発熱、咳等のインフルエンザ様症状があり、X線写真で肺炎像を呈する。細菌検査では(－)であったため、対処療法(輸液・呼吸管理)のため、4人部屋に入院。

その後、臨床的にインフルエンザH5N1感染が疑われるため、都の判断で、都立立川病院(感染症指定医療機関ではない)から国立国際医療センターに転院。

「Yahoo! ニュース」より

ヘッドライン

国内で新型インフルエンザ発生か

ベトナムから帰国した会社員(52歳)が、帰国後、発熱・咳などのインフルエンザ様症状が悪化したため、都内の病院を受診。その後の検査で、インフルエンザH5であることが判明した。現在、ベトナムでは、H5インフルエンザの患者が多発しており、新型インフルエンザの発生ではないかと懸念されており、同患者もベトナムでの感染が濃厚であるとのこと。なお、東京都によれば、現在、詳細な調査を行っている最中であり、同行者等については不明であるとのことである。もし、この患者が新型インフルエンザに罹患しているのであれば、国内第一例目となり、今後、国内にも感染が蔓延することが予想される。【〇〇新聞 7月2日0:12更新】

・ 新型インフルエンザ- Yahoo!カテゴリ

質疑応答再録

結核感染症課 T課長

2006年5月15日

【1回目会見】

T それではインフルエンザ A 型 H5 の感染者の国内発生につきまして記者発表させていただきます。私は厚生労働省健康局結核感染症課長の塚原でございます。よろしくお願ひします。聞こえますか？

いま資料をお配りしておりますので資料に基づきまして内容ご説明いたします。

患者さんは50代男性です。東京都立川市にお住まいです。ご職業は商社の社員です。

この方のこの何日間かの行動でございますが、6月23日からベトナムのほうへ出張されています。ホーチミン、ハノイに滞在されて、7月1日早朝、成田に帰国をしております。成田から自宅、立川市ですが、こちらまではリムジンバスでお帰りになっております。

発症と診断の経緯ですけれども、搭乗時に悪寒、成田到着時には発熱があった、というふうにおっしゃっております。バスで移動中に咳が出ています、始まった、ということです。正午に都内の病院を受診をされまして、発熱等のインフルエンザ症状があり、X線写真で肺炎等を認められております。

午後8時、H5N1が疑われたため、都内の病院から指定感染症病院であります国立国際医療センターに転院をしております。

2日の午前0時、東京都立健康安全センターにおきまして患者、検体からインフルエンザウイルス A 型 H5 を確認をしております。検査はPCRでございます。

ただちに東京都知事が感染症■■■につきまして入院の勧告を行っております。

これまでの対応ですが、まず患者家族あるいはベトナム出張の同行者と濃厚接触者に対する健康調査を行っております。まだ結果は出ておりません。

それから同乗者の把握、これは航空機、リムジンですけれども、この把握と健康診断の受診勧奨をできるところからいまいっております。

厚生労働省新型インフルエンザ対策推進本部の幹事会を昨夜21時に開催をいたしました。東京都対策本部へ結核感染症課の職員2名を派遣をしております。

それからこれは前もってお渡ししておりますが、ベトナム帰国者に対する検疫についての免疫課検疫課長級(?)に対する通知を出しております。

それからベトナム渡航者への注意喚起、不要不急の渡航自粛を要請するということを弊庁のほうで対応しております。

今後の対応でございますが、1の(2)で言いました濃厚接触者の把握とそれから健康診断の勧奨というのをこれを引き続きやっていく、と。

それから、まあ、本日8時から厚生労働省新型インフルエンザ対策推進本部を開催します。

それから1時間後の9時ですけれども、鳥インフルエンザ等関係省庁対策会議も開催する予定です。

あの、30分のお話で、まあ20分という予定で考えておりますのでよろしくお願いをしたいと思います。

私のほうからは以上です。

幹事社 では幹事社のほうからまず質問させていただきます。患者の詳細ですが、同行者は他にどんな方がいたのか。また、リムジンバスで帰ってきたということですが、その後病院へはどのような交通機関で行ったのか。また最初に行った病院はどこなのか。ここまでお願いします。

T まず同行者ですけれども、まあ、あの、いま会社のほうに確認をしているところです。ただ、まだ確定しておりませんが、会社の出張ということで何人かの同行者があります。いま確認中です。それから病院へどうやって行ったかということですが、これはタクシーを呼んで行ったということでございますので、タクシーの運転手、この方は特定できておりますので、この方についても健康調査の対象ということでいま対応しているところです。それから病院につきましては、まあ把握をしておりますけれども、いまのところ公表は差し控えさせていただきたいというふうに考えております。

幹事社 いま同行者の確認中だということでしたが、この商社のほうに確認をとっているということですか？

T はい、商社のほうにはもう確認しております。

幹事社 ですけれども同行者の人数さえわからないということですか？

T はい。

幹事社 でもだいぶ時間が経っていますよね。わからない？

T はい。

幹事社 それはまだ言えないということではなくて、わからないということですか？

T いえ、まだ最終確認をしているところであると東京都から聞いております。

幹事社 あと、病院名を言えないというのはなぜですか？

T はい、やはり、えー、まあ混乱が起きてもいけませんし、えー……別途病院の中での感染対策というのはきちっとするように指示、あるいはこちらのほうからも確認をしておりますので、そこから広がることはないということでございます。で、まあ経営者の方とも調整をしなければいけない問題でありますので、いまの段階では病院の名前については公表を差し控えさせていただきたいということです。

幹事社 何と調整？

T えー、経営者の方です。

幹事社 経営者というのは？

T 開設者。

幹事社 あ、病院の？

T 病院の開設者です。

幹事社 その方と調整をしなくてはいけない？

T はい。

幹事社 すると私立の病院ということ？

T ええ、それも含めて、調整のついた段階で検討させていただきたいと思います。

幹事社 するとこの方が最初にその病院に行かれたのは正午ですが、その方はどうなんでしょうか、インフルエンザの疑いもたれたのは午後 8 時で、午後 8 時に転院したということですが、8 時間の間、最初に入った病院でどのように過ごしていたんでしょうか？

T ええ。

幹事社 隔離状況とか。

T えーっと、外来でまず受診をされて、で、非常に症状が重いということですので X 線検査になっています。で、X 線検査の結果肺炎であると認められたということですので入院、ということになりました。で、入院したのがですね、4 人部屋ということで、部屋の中に他に 3 人の方がおられます。ですから、その 8 時までの間はその 3 人の方が同じ部屋におられたということですので、潜伏期間から考えてまだ症状が出るような状況ではないんですけども、この 3 人の同室者につきましては向こう 240 時間、健康監視をするということで病院のほうには指導しております。

幹事社 この 3 人の方は長い時間一緒にいらしたわけですが、少なくとも 50 代の男性はこの病院に行って外来に行き、診察をし、うろろろするわけですよね。その間いろいろな人に接触した可能性があります、そのヒトたちもけっこう心配だと思うんですよ。そういう意味でもそういう方々に健康診断の勧奨をするためにも病院名は教えていただくことはできないんですか？

T はい、先ほど申し上げましたけれども、そういうことも含めていまのところは、えー、開設者の方と、えー、協議をさせていただいております。

幹事社 開設者と協議ができないと、その病院に正午から 8 時までいた色々なたくさんの方

人たちに対しても何も言えないということですか？

T それはあの、外来で受診されている方、それから入院されている方も含めてでございますけれども、病院のほうでは特定できておりますので、その方々には病院のほうから、まあ、こういう症状が出た場合には速やかに受診する、というような注意喚起も含めて対応していただくようになっております。

幹事社 わかりました。

では、他の方。

質問 そもそもこの人は向こうで鳥と接触するような仕事をしていたんですか？

T そこは確認がとれていません。というのは、ご本人がもうかなり重い肺炎の症状ですので、ご本人とその状況を確認するということがまだできておりません。鳥に具体的に、たとえば死鳥に触ったかどうかということについてはいまのところ確認できておりません。

質問 それによっては今後かなり大きな問題になってくるかどうかというところだと思いますが、どういうふうにならぬように確認をとるのか。それにもし仮に向こうでヒトからヒトに感染していた場合、それに対してはどのような対策をとるつもりですか。

T はい。これはもうすでに報道されていることですが、ベトナム、ハノイあるいはホーチミンの状況を見ますと、まだ確定的なことは申し上げられない状況だとは思いますが、ただ単に鳥からヒトにだけ移っているというような感染経路だけじゃなくて、もうちょっとヒトからヒトに移っているんじゃないかということが言われるような報道がされておりますので、そういうことを考えますと、鳥からヒトへ移ったということだけではなくて、ヒトからヒトへ移った可能性も含めて対応していかなければならないというふうに考えております。

質問 それはいまどのような方法で確認をとっているのですか？

T えー、ご本人にはいまの状況ではなかなかお聞きするような状況ではないので、先ほどちょっと触れましたけれども、えー、同行された方にどんな、向こうに行っている間、鳥に接触したのかどうか、あるいはその鳥が病鳥だったり死んでいる鳥だったり、というような鳥との接触歴があったかどうか、これをいま東京都のほうで同行者に聞いているという状況です。

質問 仮にヒトからヒトへの感染だった場合はどのような対策をとられる予定なんですか？

T ヒトからヒトということになりますと、非常に感染力が強くなっているということで、まあ一つはベトナムのほうに行かれる方に対しては、いままでは「鳥に近づかないように」というような啓発をしておりましたけれども、今度は鳥以外でもヒトからヒトへ感染するという状況に仮になったとしますと、「ヒトからヒトへの感染も想定した行動の注意」というものを喚起しなければいけないと思いますので、そういう意味ではもう患者さんの発生が伝えられているような地域にはなるべく渡航はしないようにという、不要不急の渡航は自粛してくれ、ということをお願いしていかなくちゃいけないというふうに考えております。

それから国内対策につきましては、いままでは鳥からヒトに移るという前提での対応でしたので、患者さんに対して病気に、鳥に濃厚に接触しましたか、ということを確認して対応しておりましたけれども、これからは必ずしも鳥との接触だけではなくて、インフルエンザ様の症状を示している患者さんの世話をしたとか、そういうような人からの感染も想定したようなことを踏まえた調査というものをしなければいけないというふうに考えています。

質問 でももう成田に着いてから立川に行くまでにたくさん接触しているわけですよね？

T あ、今回の事例につきましては、えー、まあリムジンバスに乗っている方については、いまは仮に感染したとしても潜伏期間だと思いますので、症状はたぶんいま調べてもないと思いますので、そういう方、把握された方については今後 240 時間、きちっとご自身の健康状況を把握をされて、もし発熱が出てきたというようなことがあれば最寄りの保健所にご連絡いただきたいということを徹底していくことになります。

質問 でもリムジンバスでどういう人に会っているとか成田でどういう人に会っているかということは当然把握できないわけですよね？

T はい。

質問 それにはどういうふうに対策されていくつもりなんですか？

T えー、そこはですね、リムジンバスについては、えー……患者さんが乗られたリムジンバスの便が特定できていますので、その便については、えー、後ほど公表するということを考えています。

質問 後ほど、っていつですか？

T えー、えー、次の会見までには、と考えております。

質問 何時ですか？ その間にもすでに感染されている方が発症する可能性があるわけですよね？ なぜいまわかっている段階で公表されないんですか？

それと、先ほど企業と都が調整しているというような話でしたが、出張に出ているの

であれば業務内で鳥と接触したかどうか、そういうことがすでにわかっているはずがないじゃないですか。なぜそれが公表できないんですか？

T あ、あの。公表できないのではなくて、わかり次第発表しますけれど、いま確認中ということです。

質問 ではそのリムジンバスについてはなぜ公表できないんですか？ 何時のリムジンバスだったんですか？

T ……、あ、リムジンバスはですね、えー……このバス、という一つには実は特定できていないんですけれども。えー、というのは、ご本人と直接、ご本人が肺炎の症状が重くて連絡がとれないということです、ですからご本人が到着された時間から、それからご自宅に帰るまでの時間を推定しますと3便考えられ、えー、可能性のあるのがございまして、その3便はA社の……8時40分発のバス、それからB社の9時発のバス、それからC社の9時20分発のバス、とこの3つが考えられます。

質問 しかし、いま我々が報道したとしても、リムジンバスには当然外国人もたくさん乗っているわけです。すると新聞を読まない人もいると思いますし、そこから爆発的に広がる可能性もあるんじゃないですか？

T それは否定できません。ので、最終的にはやはり皆さんの報道のお力もお借りをして、えー……本人は自覚をしていなかったかもしれないかもしれませんが、インフルエンザ様の症状が出てかなり重いという状況については、鳥に当たっていなかったとしたとしても、あるいは身近にインフルエンザの患者さん、あの、新型インフルエンザの患者さんがおらなくて接触履歴に思い当たるところがなくても、念のため、えー、医療機関を受診して、早めに受診していただく、ということをお願いしたいとこういうふう考えています。

質問 いや、ですから、リムジンバスに乗って今晚都内のホテルに泊まっている外国人がいたとして、その人が仮に明日の朝満員電車に乗ったらどうするんですか。他の人に広がりますよね。そういうことに対して厚労省はどのような対策をとるのか聞きたいんですが。

T ……えー、そこは、えー……まあ、把握するのに限界があることはおっしゃるとおりなんで、そのバスに乗っている可能性のある方については搭乗者名簿まで遡ってよくよく把握をするということで対策を講じたいと思っていますけれども、それでもなおやはり把握しきれない部分については、えー……いまの時期にインフルエンザ様の症状が出たという方については早めに医療機関を受診してほしいということを広くお願いする、ということが次の段階のできる対応ということだと思います。

質問 もっと一般の人に切迫感を持ってもらうような注意喚起をしたほうがいいんじゃないですか？

T ……はい、まあ、私たち、いままでもそれぞれのタイミングタイミングで国民の皆さんにはいろんな形で周知を図ってきておりますけれども、今回は、あの、非常に重大な局面ということで、えー……国民の皆さまにもうちょっと、いままでよりはより危機感を持っていただけるような方向で……重視していただきたいというふうに思っています。

質問 具体的にはどのようなことを？ 国民への対策は厚労省としてはないんですか？

T まあ、移らないように、という意味では（微笑）手洗い、人ごみに出た、それから帰ってきた段階では手洗い・うがい、これを徹底していただくというようなことをしていただくということは非常にいま重要なことだと思いますし、それからたとえば今度は人に移さないについては、熱がある、あるいは咳が出てきたというような場合には、ふつうの風邪かなと思ってなるべく外出は避けていただく、あるいはマスクをして、どうしても出なくちゃいけない場合にはマスクをして出ていただく、というようなことをよりいままでよりも注意をして対応していただくということが必要だろうと思います。

質問 ここで改めておうかがいしますが、原因の特定はできているんでしょうか？

T 原因の特定は、できていません。というか、感染経路については特定ができていません。

質問 トリからヒトか、ヒトからヒトかというのはどうなんでしょう？

T いまの段階ではわかりません。

質問 わからない。これは今後確証を出していくという感じはあるんですか？ どのような原因か、どこで感染したか、なぜ感染したかということ突き詰めていくお考えはありますか？

T はい。これはあの、日本の国内だけで評価するのは難しいと思いますので、ベトナムの状況、まだヒトからヒトへ感染しているということまでは伝えられていませんけれども、もう近々、今日ぐらいにはもう WHO も現地に入るといふふうに聞いております。WHO が現地に入って地元の関係者とのいろんな対応の中でヒト→ヒト感染が始まっているかどうかということについては、えー、遠からずわかると思いますので、

質問 次の会見ではおわかりになりますか？

T いまのところわかりません。先ほど、ウプロに日本から行っております進藤専門官の